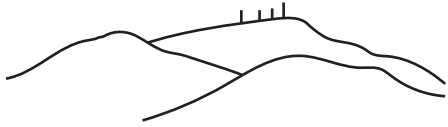


Youth Manna

2021/8/30 - 9/5



マルコ 1:35

さて、イエスは朝早く、まだ暗いうちに起きて寂しいところに出かけて行き、そこで祈っておられた。

2021/8/30(月)

II 歴代誌 23 章

アタルヤがダビデ王家の人たちを皆殺しにしてから7年の月日が経っていました。アタルヤによる恐怖政治の中、ヨアシュを匿っていたエホヤダは忍耐強く待っていましたが、ついに奮い立ちます。彼の確信となっていたのは、神様の約束のことばでした(3)。

作戦が成功すると、一番に取り組んだことは、全ての人に、主の民となる契約を結ばせることでした。偶像を壊したり、主の宮を整えたりという行動から、彼らが何を第一にして国を再建させようとしていたかが分かるね！

私たちの確信はどこにあるだろうか？また、君の生活はイエス様を愛しているものとなっているだろうか？

2021/8/31(火)

II 歴代誌 24 章

ヨアシュ王の行いは、1~16節は「善」17~27節は「悪」とハッキリと切り分ける事が出来ます。悪を行うようになったきっかけは、エホヤダの死です。状況だけ見ると、ヨアシュはエホヤダがいなくなると神に従わない人だったと言えます。

私達は、セルの時間を通して神様との関係を深める事が出来ます。でもそれに加えて、1人の時も祈ったりして、神様との直接の関係を持つ事が必要です。セルに期待して参加しよう！神様と自分との関係が強められ、守られるように祈ろう！

2021/9/1(水)

II 歴代誌 25 章

アマツヤは「主の目にかなうことを行なった」と記されている(2)。父ヨアシュを殺した家来たちを罰した際も、律法の定めに従って子どもには手を出さなかった。北王国から兵を雇ったことを叱責された際は、支払い済みの賃金を諦めて、その部隊を戦いに加えない決断をした。どちらも神の意思に沿って行動したと言える。そして約束の通り、神はアマツヤに、エドムに対する勝利を与えてくださった。

しかし、アマツヤはエドムの神々を祀った。偶像礼拝は、国が内側から滅んでいくような危険な行動である。また、警告の言葉を無視してイスラエルを攻め、アマツヤは死ぬことになった。

みこころでない行動は祝福を受けない。いつも神を求め、頼ることができるよう祈ろう。

2021/9/2(木)

II 歴代誌 26 章

ウジヤは16歳で王となり、主の目にかなうことを行った(4v)。父アマツヤのように国に偶像を持ち込むことはなく、ヨシャパテのように間違った同盟を組むこともなく、失敗からよく学び、軍備や防衛を整え、10vに「農業を好んだ」とあるように産業も安定させ国を豊かにした。

しかし、ウジヤは晩年高ぶりゆえに神の怒りを持った(16v)。香を焚くことも、神殿の中に入ることも祭司にのみ許された行為であるのにそれを破った。神はウジヤを打たれ、ツアラアトにおかされたウジヤは死ぬ日まで治ることはなかった。

私たちの立場や権威は全て神様によるものである。弱さゆえに間違ふことのないよう、心を保とう！神様のために歩み続けよう！

グミの日

2021/9/3(金)

II 歴代誌 27 章

▶ヨタムはユダの王様としてふさわしい人で、国に安定をもたらした。良い道を歩み始めたのに罪の道へと行ってしまった今までの王様と違い、ヨタムは最後まで神の前を誠実に歩み通した。

▶しかし、「民は依然として滅びに向かっていて」とある。王としてはできる限りの良い政治を行っていたが、民全体を変えることはできなかった。

▶私たちの歩みが主の目にならなっていたとしても、愛する家族・友人が滅びに向かっていたら悲しい。思いつく人のために、また世界の人のために祈ろう。

2021/9/4(土)

II 歴代誌 28 章

アハズ王は初めから本当の神様に従うことをせず、バアルの神々に礼拝し、自分の子どもを献げるといふ最悪な伝統にまで手を出してしまったね。そこで神様は他の国がアハズ王の国を攻撃して滅ぼすように計画した。もちろん神様の目的はアハズをこらしめるためじゃない。彼がその困難の中で自分の罪に気づき、神様のところへ戻ってくることを願ってそうしたんだ。それでもアハズは神様に悔い改めようとはしなかった。

私たちは神様に従ってないと気づいた時、素直に悔い改めているかな？神様を、今も生きている自分の主だといつも受け取っているかな？

ぜひ今日の朝も新しくその恵みを受け取ろう！

2021/9/5(日)

II 歴代誌 29:1-19

ヒゼキヤ王は、王様になってすぐに、神殿と民の礼拝の再建に取り組むように指示を出しました。ヒゼキヤ王は、国が悪い方向へ進んでいっているのは、神様への礼拝がおろそかになっているからだとはっきりと民に語りました。今まず自分たちがやるべきことは、神様に心を向けて礼拝を中心として生きていくことだと人々の心に強く問いかけたんだね。

目の前の物事がうまくいかない時や、困難にあうとき、それらのことが自分自身の信仰とは別のことだと感じていることはないでしょうか。歴代誌では、社会の動きや問題と、信仰の問題は一つの話だと繰り返し語っています。毎日の生活の中であなたの心はどこに向いているのでしょうか。

自分自身の歩みを振り返り、今自分がすべきことは何か、静まって考えてみよう。